

言葉にならずに灯り続けた想いがある。

企画展

仙台の東部沿岸地域に位置する荒浜地区。
約800世帯2,200人が暮らした、海辺のまちです。

東日本大震災が起きてから災害危険区域に指定され、以前のように住むことが
できなくなりました。2019年には高さ6mのかさ上げ道路がつくれ、こどもたちの
学び舎として142年のあいだ愛されてきた仙台市立荒浜小学校は、現在は“震災
遺構”として一般公開されています。

荒浜に暮らす方々が培ってきた人と人との深い繋がりが。
豊かな自然に抱かれた海辺の暮らし。
全てが一変したあの日から、今年で15年目の春を迎えます。
震災で被災した荒浜のこどもたちは時を経て大人へと成長しました。
日々の変化のなかで彼ら彼女らは何を感じ、ふるさとについて想いを巡らせてきた
のでしょうか。

本展は、荒浜小学校を拠点に活動が続ける有志団体「HOPE FOR project」が
制作した、荒浜や七郷をルーツに持つ人々へのインタビュー記録「声を掬う」を
元に構成しています。
動画と書籍によって一つひとつ掬いあげられた声たちを今、届けます。

〔展示期間〕

2026年3月1日(日)～5月31日(日)

※3月11日(水)、4月11日(土)は19:00まで延長開館

〔会場〕

せんだい3.11メモリアル交流館 2階展示室

【地下鉄東西線荒井駅舎内】

入場無料

〔開館時間〕

10:00～17:00

休館日

毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)

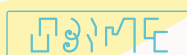
祝日の翌日(土・日曜日、祝日を除く)

※3月16日(月)は臨時開館

主催／せんだい3.11メモリアル交流館 共同企画／HOPE FOR project
協力／震災遺構 仙台市立荒浜小学校

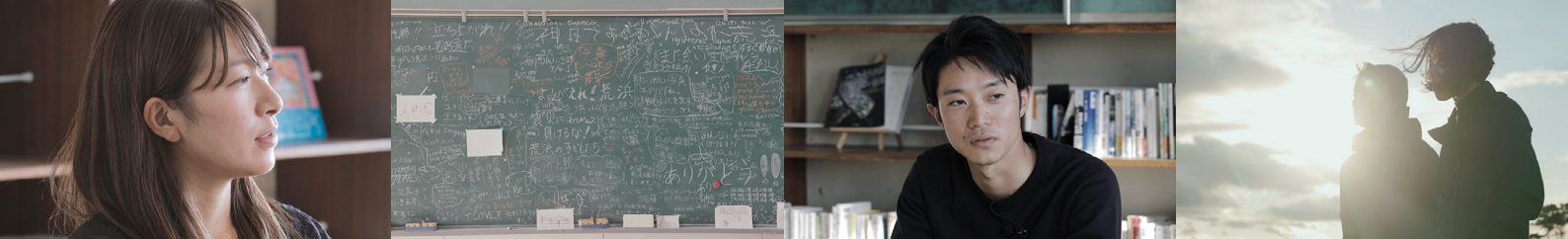
声を掬う

15年目の春によせて



せんだい3.11メモリアル交流館
Sendai 3/11 Memorial Community Center

ARAHAMA
Living History



自己の尊厳を抱きしめ、諦めることなく歩み続ける。

その姿こそ、人が美しく生きるといふことの輪郭なのだろう。

彼ら彼女らは、あの日から今日まで、何に心を震わせ、何に沈み、何に救われてきたのか。

ここに綴られるひとつひとつの言葉は、いまもなお、この土地をふるさとと呼ぶことを諦めていない証である。

「復興」という大きな言葉の陰で、そよぎのように残った声なき声。

それらは、私たちの奥底でひそやかに灯り続ける、あの日からの記憶の温度であり、

彼ら彼女らが美しく生きることを諦めなかった、その歩みの痕跡でもある。

— HOPE FOR project 高山智行

声を掬う

15年目の春によせて

小・中・高校生の時に震災を経験した13人のインタビュー映像(2021-2024年に撮影)から、一人ひとりの心の内や、伝えたい想いを紹介します。

あわせて、宮城県出身の美術作家・佐竹真紀子さんの荒浜を題材にした絵画作品「Seaside Seeds」を展示。

震災後の荒浜に通い続け、そこで出会った人々から暮らしの記憶や想いを聞き取って生まれた本作は、多くの人に愛されてきた荒浜の心の風景を映し出しています。本展を通して、仙台の沿岸部をより身近に感じていただき、ご自身の暮らす土地へも目を向けていただくきっかけとなれば幸いです。

【展示関連企画】

佐竹真紀子さんと見る・語る「Seaside Seeds」

本作は木製パネルに絵の具を塗り重ね、彫刻刀で彫って描かれました。作品が生まれた背景や想いを聞きながら、過去・現在・未来の荒浜に思いを馳せます。

〔日時〕 4月25日(土) 13:30～14:15

〔定員〕 15名程度〈申込先着順〉

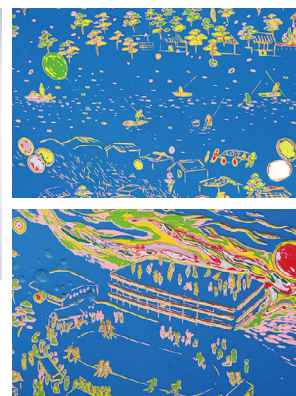
〔参加費〕 無料

〔申込〕 4月7日(火) 10:00より、電話またはホームページ内申込フォームで



佐竹真紀子「Seaside Seeds」(2016年)

写真提供:水戸芸術館現代美術センター 撮影:根本譲



春の荒浜をたずねて

震災遺構 仙台市立荒浜小学校を訪ね、小学校のスタッフによる案内で校内をめぐる、深沼海岸までの道を歩きます。

〔日時〕 5月23日(土) 9:45～12:45

〔定員〕 15名程度〈申込先着順〉

〔参加費〕 無料〈往復の市営バス代片道240円〉

〔集合・解散〕 せんだい3.11メモリアル交流館 ※現地解散可

〔申込〕 5月6日(水・祝) 10:00より、電話またはホームページ内申込フォームで

HOPE FOR project 2026

〔日時〕 3月11日(水) 15:15～風船リリース | 16:00～音楽

〔場所〕 震災遺構 仙台市立荒浜小学校



公式YouTubeチャンネル

【HOPE FOR project】

東日本大震災後、荒浜小学校・七郷中学校の卒業生を中心に立ち上がった団体。故郷を離れた元住民や地域に関心を持つ人々が、荒浜とつながり続けられる場づくりに取り組んでいる。主な活動として、毎年3月11日に荒浜小学校で開催する「HOPE FOR project」(2012-)のほか、インタビュー映像「声を掬う・ARAHAMA Living History」の制作・書籍化などを通じ、震災後を生きた人々の想いを伝える取り組みを行っている。

せんだい3.11メモリアル交流館の 2026年3月11日(水)

東日本大震災から15年となるこの日、献花台を設置し、19時まで開館します。

せんだい3.11メモリアル交流館 Sendai 3/11 Memorial Community Center

〒984-0032 宮城県仙台市若林区荒井字沓形85-4 (地下鉄東西線荒井駅舎内)

〔Tel〕 022-390-9022

〔E-mail〕 office@sendai311-memorial.jp

〔Web〕 <https://sendai311-memorial.jp/>

〔アクセス〕

仙台駅から……地下鉄東西線荒井駅行きで13分

仙台空港から…仙台空港アクセス線仙台行きで25分、仙台駅で地下鉄東西線に乗り換え

※お車で越しの方は、近隣の有料駐車場をご利用ください。

※バイク・自転車でお越しの方は、荒井駅駐輪場(有料)をご利用ください。



メモリアル交流館ホームページ

